上 田 市 立 丸 子 中 学 校

（１）学級数　12クラス
（２）生徒数　192 名　女子 170 名　計 362 名
（３）職員数　31 名
（４）学校紹介

http://www.school.umic.jp/maruko/

本校は、創立６１年目をむかえる。依田川と内村川の合流する静かで落ち着いた、教育にふさわしい場所に位置している。平成７年度に竣工した新校舎は、木造の温かさとコンクリートの造りの堅牢さが調和を奏で、地域の教育に寄せる熱い思いと、強い意気込みが見事に形となって現れ、生徒たちに愛される学舎となっている。

教育活動では、学校目標「みずから学ぶ　ともに創る　たくましく生きる」を大きな指針として掲げ、生徒一人ひとりを大切にし、確かな学力を身につけさせるとともに、新たな時代を生き抜いていく力を育てようと、職員全員で取り組んでいる。

生徒会では、「清掃」「花壇」「合唱」を伝統の三本柱に据えて、自治の精神を培いながら、伸びやかな発想を大切にする活動が行われている。

部活動も盛んで、特に野球部は１８年度に、上小・東信の地区大会と県大会ですべて優勝し、北信越大会３位に輝く活躍を見せ、本校生徒に自信をもたせると共に、地元の丸子地区を大いに勇気づけた。

北信越３位に輝いた野球部

（５）大会テーマの受け止めと研究のねらい

本校では、昨年度まで３年間の「学力向上フロンティア拠点校形成事業」の指定を受け、その間一貫して、『自ら学び、ともに伸びる生徒』の育成を目指して取り組んできた。研究の大きなねらいとして「生徒と職員が協力して作り出す学力向上の気風」を学校全体に根付かせることや「努力すること、学力を伸ばすこと」のよさや大切さを実感させたいと願ってきた。

具体的には、次の『研究の三本の柱』をたてた。

①「学ぶ心」と「考える力」を育てる
『授業展開の工夫』
②「学ぶ心」と「学ぶ習慣」を身につける
『学校学年経営』
③「生徒の学び」を保障する
『教師の指導力の向上』

また研究を支えるものとして次の『四つの土台』をたてた。

①「教師と生徒」「生徒と生徒」の
『心の開かれた信頼関係』
②「自ら考え、学び合う時間」や「定着の時間」を保障する**『教育課程の工夫』**
③「見えない学力」を支える
『学校全体の有機的な取り組み』
④「本校の学習や学力」の実態をつかむ
『学力分析』

この柱と土台を中核として『学力向上計画』を立案し実践した。授業改善では、グループ学習を授業に取り入れ、「生徒が主体として活躍する授業」「生徒の本音が導かれる授業」を目指した。

伝統の中庭全校合唱（大地讃頌）

その結果、「『自ら学ぶ』と『ともに伸びる』のサイクルと支援」を授業展開に取り入れた本校の授業形態が確立できてきた。

特に昨年度は、読解力を視野に入れ、『学ぶ心』と『考える力』の育成を研究した。その結果、単元の最終目標を工夫することで『学ぶ意欲』を高め、『確かな文章の読み取り』や『自分独自の表現を練り上げ』、最終的に『自分の表現を発信すること』ができた。

また、教師の中に「生徒を主体とした理想の授業づくりへの意欲」が定着するとともに『学力の向上』を学校全体で支えていく意識が醸成された。

本年度、視放研の研究目標を受け止め、そのねらいとする「生きる力」「自ら考える力」心豊かな人間性」の育成を目指して、本校で培ってきた授業形態や基本を大切にしたい。それとともに、自分や自分の理想とする姿の把握と学習課題の設定・めあて追究の有効な手段として、視聴覚メディアを位置づけていきたい。

（6）日常的な活用

○パソコンシステムの活用

現在上田市の努力により、パソコンは１教師１台に近い数が支給された。ネットワークもマルチメディアセンターを中心に整備され、各校務のファイルが共有でき、年度を越えた引き継ぎも容易となった。コンピューター室では、１人１台のパソコンが使用できる環境であり、インターネットでの調べ学習やプレゼンテーションソフトで自己表現する活動に利用されている。

○プロジェクターの活用

現在５台が使用でき、体育館における、生徒集会や文化祭、ビデオやプレゼンテーションソフトなど、視覚的な教材を授業で取り入れることに役立っている。今回公開となる「保健体育の創作ダンス」においても有効な利用をする計画である。

○デジタルカメラ・デジタルビデオカメラ

現在６台が使用でき、生徒の作品や動きをリアルタイムで撮影し、プロジェクターと組み合わせて「学習のめあて・見通し」の設定や「追究途中の達成度」を客観的に自覚できる手段に使用として研究中である。

本校で大切にしているグループ学習

（7）研究を推進してきての現時点での課題

保健体育科では研究テーマを「生徒がお互いに支え合って技能面を高めていく体育学習のあり方」とし、「創作ダンス」単元での発表を予定している。

具体的には、まず丸子中学校の「創作ダンス」とはどんなものかを昨年度の発表会のビデオを見ることにより視覚的にとらえさせ、ダンスに対する創作意識と意欲を高めさせたい。次に「自分たちの目指すテーマと表現」を決めだし、それに合った動きの形や速さ、大きさをグループで創作していくことを考えている。その際、自分たちの動きを客観的に見ることはできないという課題がある。従来は鏡を用いることが多かったが、動きながらは見にくい、記憶に残すしかない等、あまり効果的とはいえなかった。

そこで、ダンスを創作する場面、創作したダンスを追究する場面で、視聴覚メディア（具体的には、デジタルカメラ、デジタルビデオ、プロジェクター）をそれぞれのねらいに沿って用い、自分が表現したいと願っているイメージと表現されている自分たちの動きの実際とを比べ、連続的に課題を追究できるようにしたい。あわせて、教師からのアドバイスだけでなく、自分たち自らの関わり合いによるアドバイス活動がそこに生まれてくることを願っている。